

社会を新たなステージへ、 ともに歩もう、ともに変えよう ～仲間の輪を広げ 安心社会をめざす～

「連合第18回 定期大会」で 2024年度スタート!



連合(本部)は、10月5日(木)～6日(金)、京王プラザホテル(傍聴Web)において「第18回定期大会」を開催し、「社会を新たなステージへ、ともに歩もう、ともに変えよう」仲間の輪を広げ安心社会をめざす」のスローガンのもと、今後2年間の運動方針などを確認するとともに新役員を選出しました。

冒頭の芳野友子会長あいさつでは、「経済や社会の状況が、生活者にとって厳しい2年間であり、『コロナ禍』『物価高』『円安』の三重苦に打ち勝つため『賃上げ』を強く訴え、2023春季生活闘争に挑んだ。大企業だけでなく中小企業での賃上げに向け、サプライチェーンにおける原材料費や労務費の価格転嫁の必要性が確認された結果、30年ぶりの高水準で賃上げが実現し、過去最大の最賃の引き上げにつながった」と、現場で粘り強い交渉を展開した単組、構成組織の努力に敬意を表し、賃上げの流れを2024春季生活闘争につなげていくように強く呼びかけました。

こうした課題の中、連合がめざす社会像「働くことを軸とする安心社会―まもる・つなぐ・創り出す―」の実現に向けて社会経済のステージ転換を確かにする2年と進分野、運動分野を支える基盤強化が「2024～2025年度運動方針」として提起・承認されました。

最後に芳野会長が、「すべての労働者、生活者の信頼を得てこそ連合運動が発展する。信頼される存在となるよう、精一杯取り組んでいく」と決意表明し、大会を締めくくりました。

また、第18期で、特に力を入れて取り組むこととして、
①ジェンダー平等・多様性推進
②「社会的な対話」を挙げ、「組織拡大、組織の魅力化、情報発信、政策・制度の実現、そして、政治の取り組みなど連合のあらゆる取り組みの土台・基礎である」と、その重要性を訴えました。

◆運動の領域と重点化◆

☆重点分野

- ①すべての働く仲間をまもり、つなぐための集団的労使関係の追求と、社会に広がりがある運動の推進。
- ②安心社会とディーセント・ワークをまもり、創り出す運動の推進。
- ③ジェンダー平等をはじめとして、一人ひとりが尊重された「真の多様性」が根付く職場・社会の実現。

☆推進分野

- ④社会連帯を通じた平和、人権、社会貢献への取り組みと次世代への継承。
- ⑤健全な議会制民主主義と政策実現に向けた政治活動の推進。
- ⑥ディーセント・ワークの実現に向けた国際労働運動の推進。
- ⑦連合と関係する組織との相乗効果を発揮し得る人財の確保・育成と労働教育の推進。

※運動分野を支える基盤強化

- 持続可能な財政の確立に向けた取り組み
- 地方・地域の連合運動の活性化と構成組織との連携強化
- 連合全体の組織力の強化とコミュニケーションの充実

11月は
過労死等防止啓発月間



実現しよう、
過労死等「0」
～働き方を見直してみませんか～

ここからどうぞ、チェックしていませんか?

<input type="checkbox"/> 残業が続いている	<input type="checkbox"/> ハラスメントなど、人間関係のストレスが多く精神的負担感のある仕事だ
<input type="checkbox"/> 夜勤など不規則な勤務が続いている	<input type="checkbox"/> 就業環境が十分に整っていない
<input type="checkbox"/> 手待ち時間、仮眠時間が多いなど、拘束時間が長い勤務が続いている	<input type="checkbox"/> 周知の情報が少ない、仕事内容などを問わず、抱えている話をできる人がいないなど
<input type="checkbox"/> 頻繁に出張がある、または長期間の出張が続いている	<input type="checkbox"/> さつぱりした、精神的に緊張した状態が長く続く仕事だ

厚生労働省
チェックが多い場合は要注意!
まずは相談してみませんか?

この情報 相談窓口
ハラスメント悩み相談室

連合なんでも労働相談ホットライン

0120-154-052

フリーダイヤル

連合鳥取2024年度政策・制度要求を鳥取労働局へ実施

連合鳥取は毎年、鳥取労働局に対し「政策・制度要求」を実施しています。
 本年度は10月3日(火)、山崎睦会長代行他6人が鳥取労働局に出向き、地域労働者の労働・雇用環境の改善など13項目の要求書を平川雅浩鳥取労働局長に手交し、その後、率直な意見交換を行いました。
 政策・制度実現に向け、連合鳥取と鳥取労働局が連携した取り組みを行っていくことを確認しました。

【連合鳥取参加役員】写真下段左から/北畑仁史副会長 森由香里副会長 山崎睦会長代行 江口真也事務局長 細砂直副会長 河村正之副事務局長 吉田正副事務局長(写真撮影)

要請項目

- I. 雇用・生活対策 / 4項目
- II. 経済・雇用・労働政策 / 5項目
- III. 最低賃金の履行確保 / 1項目
- IV. 安全衛生対策 / 2項目
- V. 就職差別の撤廃 / 1項目



平川鳥取労働局長(右)に要請書を手交する山崎会長代行(左)



東部地協発

身近なところからいろいろ考えよう!

鳥取県は
900円

鳥取県最低賃金PR・街頭行動の取り組みを実施

鳥取県の最低賃金が、10月5日(木)から「時給854円から46円引き上げ900円に改正」されたことを踏まえ、広く周知する取り組みとして“あなたの最低賃金、上がってる?”のチラシを利用し、JR鳥取駅前で通行される方々やドライバーのみなさんに向けて、マイクを使用し、の街宣行動を行いました。また、街宣車近くでは、東部地域協議会(以降「東部地協」)役員17人が、チラシ入りポケットティッシュを通行されるみなさんに配布する行動も実施しました。



この金額を下回る時は違法オコシ!

東部地協推薦議員と3年ぶりの意見交換会を開催

10月10日(火)、東部地協役員と鳥取県東部出身の連合鳥取推薦議員(県議会議員2人・鳥取市議会議員5人)が白兔会館に集い、2020年以後コロナ禍で開催できなかった「推薦議員との意見交換会」を2時間にわたり開催しました。

7人の議員から、9月議会(県・市)での一般質問や審議内容の報告と日常での活動報告を受けた後、東部地協役員と身近な問題等活発な意見交換を行いました。

最後に「働く者の立場に立った政策・制度」実現に向けて、今後も連携した取り組みとなるよう双方が確認した意見交換の場となりました。



人権を考える「労組対象研修会」に60人参加

10月18日(水)、とりぎん文化会館において「労働組合対象研修会」を開催しました。東部地協は鳥取市人権教育協議会に参画し、人権学習を通じて人権に対する意識の高揚とさまざまな人権課題の解決をはかるため人権尊重の社会の実現に向け毎年研修会を実施しています。

今、国内外を問わず人権に関わる大きな問題が頻発しています。今回の研修会は、①ウクライナ、イスラエルとイスラム組織の戦争、②国会議員による人権を侵害する発言、③ジャニーズ問題等々、人権を軽んじる問題が連日報道されている中、2つの産別での取り組みについて事例を紹介いただきました。労働組合の視点から、人権に関わる必要性を学習する貴重な場となりました。

講師と発言内容(抜粋)

- UAゼンセン鳥取県支部(北畑仁史支部長) / 構成組織の産業の特性上、ビジネスに関し人権に関わらないと企業に対する不買運動に発展する。
- JP労組鳥取連絡協議会(谷本 寛議長) / 少数職場が多くあり、職場でのハラスメントが起きやすい環境下にある。



写真左から/北畑支部長 谷本議長



会場の様子

西部地協発 映画作品を通してマイノリティ問題を考える

西部地域協議会は、マイノリティ問題を考えるため、「人権学習」として部落解放同盟が主催で開催された「田中幸夫監督特集in米子(10月8日/米子市文化ホール)」に55人の組合員が参加しました。

この映画鑑賞会では部落差別やLGBTQなどをテーマとした6本の映画が上映され、「差別はする側の問題であり、誰も差別されない権利を持っている」ことを学ぶことができました。

※上映された映画など

- 「銀と穴ぼこ(こども用)」
- 「私と部落とハンセン病」
- 「徘徊 ママリン87歳の夏」
- 「虎ハ眠ラズ」
- 「監督トーク」
- 「千鳥百年」
- 「女になる」



鳥取退職者連合発 誰もが安心して暮らせる社会の実現をめざそう!
「第31回定期総会」&「全県学習会」を開催

鳥取退職者連合は10月3日(火)、国民宿舎水明荘(湯梨浜町)に43人(代議員26人・執行部17人)がつどい、「第31回定期総会」を開催しました。

河崎紀子代議員(鳥取県退職女性教職員の会)を議長に選出し、山田敏明会長があいさつを行い、続いて来賓のみなさんから激励のあいさつをいただきました。

西村一秋事務局長による経過報告、会計決算報告、磯江悦志会計監査の監査報告に続き、活動方針案、予算案の提案と、伊藤源蔵役員選考委員長から役員の変更がないことが報告され、代議員の満場一致の拍手によりすべての議案が承認されました。

また、定期総会前段には、日本退職者連合副事務局長の宇田川浩一さんを講師に「社会保障制度の動向と課題」をテーマにした学習会を開催しました。



写真上/山田会長



講師/宇田川副事務局長

2022年全世代型社会保障構築会議の「報告書」をもとに、社会保障をめぐる国の動きを解説しながら、連合の医療、介護、年金、子ども・子育て支援等の考え方を説明されるとともに、日本退職者連合が政策課題を「2023年度政策・制度要求」として政府をはじめ友好政党に要請行動を展開したことも報告されました。

秋晴れの下 「第27回グラウンド・ゴルフ大会」に146人参加!

10月16日(月)、お台場公園・多目的広場に146人の選手と事務局の6人が集い、「第27回グラウンド・ゴルフ大会」を開催しました。

開会式には、開催地北栄町副町長の岡本圭司さんをはじめ、いつも鳥取退職者連合の活動にご理解とご協力をいただき、この大会にも賞品をご提供いただいた福祉・事業団体のみなさん、興治英夫鳥取県議会議員、湯原俊二衆議院議員秘書も駆けつけてごあいさついただきました。また、鳥取退職者連合の会員でもある福井康夫倉吉市議会議員と荻原美百合北栄町議会議員はゲームにも参加をいただきました。



開会式の様子



【参加状況】

団体戦25チーム(6組織)(125人)※1チーム5人

個人戦(7組織)(146人)【NTT労組・JP労組・自治退・JR西労組・鳥退教・私鉄日ノ丸・UAゼンセン】

スタッフ(6人)【中部地区協・退女教・連合鳥取】

○団体戦/25チーム(6組織)(125人)		合計打数	ホールインワン	2打	3打
順位	チーム名				
優勝	情報労連・東部・B	201打	3本	31本	40本
準優勝	私鉄日ノ丸退協・D	201打	3本	31本	39本
第3位	情報労連・東部・A	203打	3本	29本	40本

○個人戦/(7組織)(146)(敬称略)			打数	ホールインワン	2打
順位	選手名	組織名			
優勝	西川 薫	情報労連	31打	2本	8本
準優勝	前田 博人	JP労組	31打	2本	6本
第3位	伊藤 伸	JP労組	33打	2本	7本



湯原俊二

— りょくひ 緑肥の想い —

タガが外れた 財政運営

臨時国会がやっと始まりました。

私たち野党は、物価高で国民の生活が厳しくなっているのに、早期に国会を開いて物価高対策を議論すべきだと主張しましたが、政府は4か月間放置し議論しませんでした。大変遅い対応です。

また臨時国会に提案される補正予算について、岸田総理は少なくとも15兆円、できれば20兆円をといっています。コロナ禍前の2~3兆円の補正予算額と比較すると桁違いです。昨年の税収は過去最高の71兆円ですが、来年度予算の要求は114兆円で、前年税収より40兆円も多い予算要求です。国と地方合わせた借金は1200兆円超で半分近くを役所である日銀が引き受けています。この先の防衛予算の増額分の財源も子育て支援の財源も不明確なままです。次世代に借金しながら使いたい放題です。

そうしたパラマキをしながら一方で、衆議院の解散が取りざたされています。衆議院の解散は、一体誰のためにするのか？国民に信を問うような課題や大義もないのに、今解散すれば選挙に勝って政権が延命でき、総理大臣も続けられるからする、つまり国民のためではなく、総理が自分のためにやり、その費用は700億円の税金です。

タガが外れた財政運営を変えるには、政権交代しかありません。

※インターネットで **衆議院TV** → **湯原俊二** を検索ください。過去の発言風景がご覧いただけます。

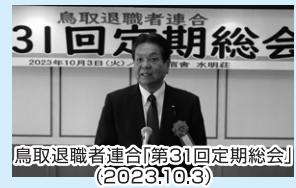
湯原さんのホームページもご覧ください **湯原俊二** **検索**



←二次元コードからもつながります



常任委員会／
地方行政、通信、消防に関する総務委員会に所属
特別委員会／
地域活性化、こども政策、デジタル社会形成に関する特別委員会に所属
党内／
こども政策部門の事務局次長に就任



“ザ・議員”

お お も り え い い ち 大森 英一

伯耆町議会議員

伯耆町議会発行の「議会だより」に「議会の虫めがね」というページがあります。町内を拠点に活動するグループや個人に光を当てるといふ企画(私の立案)ですが、好評のようです。

今回取材した臨床美術*について、主催者の井澤ゆうかさんによると、日本発の新しい臨床方法で、芸術家+医者+カウンセラーの分野を融合することで、脳の活性化、認知症予防、子どもの感性教育、ストレス解消などの効果が期待できる芸術療法とのことでした。

現在、園児、介護施設利用者、各職員、各保護者、不登校生徒など、幅広く講座の依頼が増えているようです。特に認知症対策、不登校対策、人権教育への有効性と必要性を感じました。

※臨床美術/絵やオブジェなどの作品を楽しみながら作ることで脳を活性化させ、高齢化の介護予防や認知症の予防・症状改善、働く人のストレス緩和、子どもの感性教育などに効果が期待できる芸術療法(アートセラピー)のひとつ。



伯耆町立岸本中央公民館内での取材の様子(右が大森議員)

な が つ か ひ ろ の ぶ 長束 博信

南部町議会議員

「地域防災」

8月の東部・中部を中心とした集中豪雨による甚大な被害が西部にも波及していたらと思います、この度は防災について一般質問でとりあげました。

地域防災に関わる事項で、弱者に対する情報入手や行政が持つ情報と地域が持つ情報の一元化(現在できていない)、及び、避難に対する具体的な方法や連絡体制などを充実させるよう指摘しました。また、大切な地域共助の仕組みづくりが遅れている地域に指導的な行動を要請しました。そして、地域が地域を守るために、普段から防災に対する備えが必要と考え、各種団体の協議会を立上げ、課題を共有できる活動ができるよう提言しています。

一方、町民が使用する施設の耐震化診断、特に子どもたちが使用する施設診断は早急に見直すよう要請しています。

今後も町民の生命、健康・福祉、医療、経営等が適切に行われるようチェックしていきます。



西部地協「ピニスウォーク」に参加(最前列左から2番目が長束議員)

新番組の育成型リーガルドラマを観ている▼人とのコミュニケーションが苦手な新人弁護士が発言に、元敏腕マネージャーが「言い方」とツッコミを入れる場面がある。日常生活で、なかなか「言い方」とツッコミは入れたい▼人とのコミュニケーションは避けて通れない。できれば良好な関係を築きたい。相手はどう感じるのか。相手の言葉に感情的に反応せず、一度深呼吸してみる。自分が言われた場面を想像し、嫌な気持ちにならば発言をやめる。理解していても、実践すると難い▼先日、私の組合で定期大会が開催され、来賓から「職場からの労働運動は、隣の人や同僚の愚痴や不満が『働きやすい職場』を作るきっかけだったりする」とあった▼組合活動の力は人なのだ。相手のことを、ちょっとだけ気づかうことも実は大事なことでないだろうか。

(A E R A)



てんてんてんてんてん



再生紙を使用しています